

令和6年度 自己評価計画書における最終報告

						石川県立内灘高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析と課題	備考（時期・対象）
1 分かる授業の実践と家庭学習時間確保 GIGAスクール構想の一人一台端末を活用し、生徒の学び意欲を高め、基礎学力の向上を図り、進路実現につなげる。	① 授業や朝学習等において、ChromeBookやiPad等を用いて、Google for Education等の機能を効果的に活用し、家庭学習のあり方を再構築し、基礎学力を向上させる。生徒の個別最適な学びを踏まえ、協働的な学びを追求する。その結果進学、就職といった進路の実現につなげる。	教務課 進路指導課	【満足度指標】 授業等においてChromeBookやiPad等の情報機器が効果的に活用され、学習意欲の喚起につながっている。	「授業等において情報機器が効果的に活用されて学習意欲が高まった」と回答する生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	B評価 (87.8%)	教員はGIGA校内研修としてICT機器を利用し授業力の向上を目指した公開授業を実施している。今後も、教科会等でよりよい授業の在り方を話し合うなど、ICTを用いた授業力向上とその結果による更なる生徒の学習意欲向上を目指したい。	授業アンケート (7月、12月／生徒対象)
	②		【満足度指標】 学力向上のために、授業の目標やねらいを明確にして、内容の説明や教材が工夫されており分かる授業が展開されている。	「授業の説明や教材が工夫されており、分かりやすい授業である」と回答する生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	A評価 (92.2%)	1学期の91.5%と同様、高評価を得ている。先生方が毎時の授業の説明や教材を工夫している。今後は机間支援を増やす・個別指導を増やすなど、残り8%ほどの否定的な意見の生徒が少しでも減るように授業の時間の使い方も工夫していきたい。	授業アンケート (7月、12月／生徒対象)
	③		【努力指標】 生徒がICT機器を進路学習・総合的な探究の時間等に活用し、個々に応じた進路学習を行っている。	「ICT機器(Chromebook・iPad・各自携帯端末)を利用して自身の進路学習・総合的な探究の時間の学習ができています」と回答する生徒の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (88.7%)	総合的な探究の時間において、個に応じた進路学習や課題研究のためにChromebookを活用して情報収集や成果物作成、発表を行っている。今後も、目標を明示したうえでの手段としてChromebookを主体的・積極的に活用できるよう、授業の在り方を工夫したい。	学校評価アンケート (7月、12月／生徒対象)
	④		【努力指標】 生徒個々の学習状況の把握や学力定着を図るために適切な質・量の課題を課することができる。	「生徒個々の学習状況を把握し、学力定着を図る課題を課している」と回答する教員の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (90.9%)	科目の実情や個々の生徒の能力に考慮しながら課題を課している。また、昼休みや放課後などの時間を活用し個別に指導を行い、授業外でも生徒と向き合う教員が多い。今後も、生徒の学力定着にむけ効果的な課題を追求していきたい。	学校評価アンケート (7月、12月／教員対象)
	⑤		【成果指標】 進路ガイダンスや進路講話等を利用して、1年、2年における進学又は就職の希望未定者を抑制する。	「進路希望未定者の割合を1年は10%以下、2年は5%以下とする」ことについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	C評価	進路希望未定者は1年生は75名中9名(12%)、2年49名中8名(16%)である。未決定の生徒には今後の進路行事や探究活動を通して、自己の在り方・生き方について考え目標を持つことができるよう指導していく。また専門機関とも連携して支援していきたい。	進路志望調査 (5月、9月、1月／生徒対象)
	⑥		【成果指標】 個に応じた進路指導を行い、本人の進路実現達成者90%とする。	進学・就職の進路実現達成者の割合を90%とする A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	A評価 (93%)	進学・就職の進路実現達成者は44名である。未決定者(2名)の進路実現に向けて、専門機関とも連携して支援していきたい。	進路実績
学校関係者評価委員会の評価		生徒の進路先に関しては、本人の希望も大切ではあるが、生徒自身にマッチした進路先をすすめる方がよい。特に就職後の事も考えて、コミュニケーション能力や忍耐力をつけさせてほしい。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		生徒自身が目指す進路先と本人の能力や保護者の思いと食い違うことがあるが、保護者生徒と連絡を密に取り合って、生徒の進路実現を目指したい。また、総合的な探究の時間や行事等を通して進路実現に取り組ませたい。					

						石川県立内灘高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析と課題	備考（時期・対象）
2 挨拶や人間関係づくりなどに留意した生徒指導や教育相談の実践 生徒の基本的生活習慣の確立を図り、規範意識を高めるとともに、18歳成人に向けて自己決定力をを育む。	① 普段の挨拶や学校での人間関係の構築に向け、具体的な態度を掲げることによって生徒指導の指針とする。また学習以外の用途でのスマートフォン等使用時間について、生徒に主体的に考えさせ、望ましい人間関係を構築する。	生徒課 保健相談課 総務課 学年	【満足度指標】 生徒がいじめのない安心できる学校生活を送ることができる。	「学校はいじめに対しての取組や指導をしっかりと行っている」と回答する生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	B 評価 (88.2%)	本校のいじめ防止対策が生徒全体の理解を得るため、日頃より、教員間で連携し生徒が安心して安全な学校である事を実感できるよう、観察、声かけ、校内巡視等を行い、いじめ抑止につなげたい。	学校評価アンケート (7月、12月／生徒対象)
	②		【努力目標】 家庭において、スマートフォン等の使用ルールについて話し合う機会を作る。	「家庭において、半年に1度、スマートフォン等の使用ルールについて話し合い、SNSトラブル回避を行った」と回答する保護者の割合が A 60%以上 B 50%～59% C 40%～49% D 40%未満	A 評価 (62.5%)	SNSによるトラブルを防ぐために、スマートフォン等の使用方法について家庭において話をする機会を作ることが重要だと思われる。PTA総会、学校公開時にパンフレット等で告知を行うなど、保護者に向けて家庭での会話の意識づけを行っていく。	学校評価アンケート (7月、12月／保護者対象)
	③		【努力指標】 課題探究を将来につなげるテーマとしてとらえている。	課題探究について「自分の将来につなげるテーマを考えた」とする生徒の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	A 評価 (77.0%)	進路実現に向け、個々の生徒が興味・関心を見つけることで、将来の夢の発見に繋げたい。課題解決に向け、より意欲的に探究に取り組ませるため、探究活動の有効的な進め方についても教員同士で研究する必要がある。	学校評価アンケート (12月／生徒対象)
	④		【満足度指標】 生徒は本校に進学して良かった、保護者は進学させて良かったという満足度が一層向上している。	「本校に進学して（させて）良かった」と回答する生徒・保護者の合計の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A 評価 生徒90.7% 保護者94.1%	地域、保護者と連携し、協力を得ながら学校運営を行っていきたい。少しでも疑問点や不審点がある場合には迅速に対応できるよう、相談しやすい環境を継続して整えいきたい。	学校評価アンケート (7月、12月／生徒・保護者対象)
学校関係者評価委員会の評価		いじめ防止対策として、成功体験を持たせることで自己肯定感を高めコミュニケーション能力を向上させ、いじめを減少させることができるのではないかと。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		生徒の自己肯定感を高めるための行事や、SNSによるトラブルを防止する取組を、保護者・地域・同窓会と連携しながら行っていく。					
3 外部との連携と社会参画意識の醸成 同窓会や地域との連携や情報発信に努め、地域から信頼され必要とされる学校を目指す。	① 積極的な情報の発信と収集に努め、進学や就職した卒業生や地域の教育資源等を活用して、生徒の社会参画意識を高める。	総務課	【努力目標】 同窓会や地域との連携に基づいたイベントや行事を通して、生徒が地域に目を向け、社会参画意識を高める。	「同窓会や地域との連携を実感した」と回答する生徒の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	A 評価 (85.0%)	同窓生の多大なご協力のもと、年に2回の社会人講話や同窓生による就職試験前の模擬面接を行っている。事後の生徒アンケートにおいても好意的な回答が多く、今後も継続して事業を実施していきたい。	学校評価アンケート (7月、12月／生徒対象)
	②		【努力指標】 ホームページやお知らせの充実等により、各ニーズに応じた学校の取組についての情報発信を行う。	「情報発信が効果的にされており、学校の教育活動が理解できる」と回答する保護者の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	A 評価 (97.6%)	ホームページや内高だよりにおいての情報発信について、保護者の方から多くの好意的なご意見をいただいている。今後も継続していくと共に、内容の工夫を凝らし、魅力ある情報発信に努めていきたい。	学校評価アンケート (7月、12月／保護者対象)
学校関係者評価委員会の評価		多くの生徒が、学校の行事の中で、地域や同窓会と連携をとっているということを実感している。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		生徒には、地域や同窓会の協力に関して、感謝の気持ちを持たせ、様々な体験をさせたい。また、同窓会や地域との連携を実感させ社会参画意識を高めたい。					
4 教職員の多忙化改善 デジタル技術を活用した教育手法や手段、教職員の事務作業の変革をおこない、業務の効率化を図る。	① 教員自らが働き方を見直し、担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につなげる。	教頭	【成果指標】 各自が効率よく業務分担を図り、時間外勤務の縮減に努める。	「担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につながった」と回答する教員の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A 評価 (86.4%)	肯定的な回答をした教職員の割合が高い。各自、時間外勤務の削減に向け計画的に業務に取り組んでいる。教員数が少ないため、主任に業務が偏っているのが見られるので、課内での業務内容の共通理解と適切な業務分担が必要である。	学校評価アンケート (7月、12月／教員対象)
	②		【努力指標】 各課主任や学年主任が担当課において、業務の効率化に積極的に取り組んでいる。	「デジタル技術を活用し、業務の効率化を図ることについて積極的に取り組んでいる」と回答する主任の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	A 評価 (91.7%)	DX/ハイスクール事業のリーダーが中心となって各課各学年において、積極的にデジタル技術を活用した業務改善に取り組んでいる。	学校評価アンケート (7月、12月／主任教員対象)
学校関係者評価委員会の評価		教員の多忙化が改善されていることはよい。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		今後もデジタル技術を活用し業務の改善に取り組み、業務の標準化に努めていく。					